



## 2017 WORLD ROWING MASTERS REGATTA (Bled Slovenia) 参加報告

国際審判員 塚田 秀樹 (京都ボート協会)

FISA 主催の世界マスターズレガッタへ審判員として参加いたしましたので報告いたします。会期・会場は2017年9月6日(水)～10日(日)、スロベニアのブレッド湖です。当地は2011年の世界選手権、その後はワールドカップを開催しています。

現地へは9月5日(火)夕方に首都のリュブリャナ空港につきました、空港の到着ロビーでは実行委員会デスクが設けられておりスタッフが到着した役員や選手の送迎サポートをしており、私と参加選手は一緒にバンで現地にも送ってもらいました。ブレッド湖近くのSobe(日本でいえば民宿でしょうか、ほぼ一般の民家です)と呼ばれる宿泊施設まで1時間弱で着きました。宿泊の手続きをして、明朝のみここで朝食をとることや、会場近くの地理を説明してもらい部屋(民家の一室)で休みました。相部屋となったポルトガルのNunoさんは夜の12時近くに到着しました。

初日6日の朝は宿で朝食です。ここで他の審判と初めて一緒に挨拶を交わします、中には昨年のFISU大会(ポーランド)で一緒だった方とは久しぶりだね!という抱擁もありです。他の方々もそのような挨拶を交わして、狭いダイニングで席を交代しつつ食事をして、現地にバスで向かいます。

会場へは15分ほどで着きます。まず、ミーティングの前にFISAネクタイとUmpireカードが各自に手渡されました。最初のミーティングでは今回の26名の自己紹介があります。1人1人がしゃべる時間はないのでスライドで名前と顔写真が数名ずつ映されます、それに合わせて1人ずつ立って皆様に顔を見せHello!などの簡単な挨拶をして終わりです、ですから今回は全員の審判を覚えることはできませんでした。なぜなら、3食の食事すべてが皆さんと一緒にの時間に同じテーブルで食べるということがなかったのです。3度の食事は朝食としてミーティングルームに大きなフランスパンのサンドイッチが届けられます、各自がそれを持って部署へ行きます、昼と夜は会場内の選手や関係者と一緒の仮設レストランで各自都合のいい時間にクーポンを渡して食べます。

審判会議では、参加クルーの説明や無線の使い方、特にNATOのアルファベット用語を使うようにということでした、これはバウナンバーに数字とA～Zまでのアルファベットが書いてあるためクルーを特定するために必ず使います。例えばB3というバウナンバーを付けたクルーは「ブラボースリー」というように呼びます。この大会では昔の100mルール(100m以内の故障の場合はレースを止め再レースとする)を適用するという、Zonal Umpire Systemでやるということが説明されました。

なお、例年そのようになっているそうですが、審判は早出組と遅出組に分かれ6日初日と最終日は2セッション、2日目、3日目、4日目はAM、PMそれぞれ2交代で計4セッションに分けます。

今回の審判員全員の氏名紹介は割愛させていただき、各国の3レターを記します。

審判長と副審判長はSLOのGOLOB兄弟(BorutさんとDarkoさん)です。どちらだったか定かでないのですが日本人の私に「ありがとうございます」とよく挨拶してくれましたが、たまに私以外の日本人でない人にも「ありがとうございます」と言っていました。

ARG AUS AUT BEL CAN CMR DEN FIN FRA GBR GER ITA JPN KOR  
LTU MEX NED NZL POR RSA SRB SWE UKR USA(以上24名+SLO2名)

(KORのLEE Kihyunさんはよく知っているKen LEEさんでした。SRBのRuzicaさんは2005年の世界選手権に参加されて長良川に来ておられました、そのことを聞いたら、あの大会はよかったです。おっしゃっていました。)

以上正副審判長を除いた24名の審判員が12名ずつに分かれて業務にあたります。

NTO は ITO の Spares になっていた HUN の MESZAROS Judit さんとそのお父様（この方が日本の先任国際審判員 H さんをよくご存じで、終始私に親切にしてくれました。2 年後のこの大会はハンガリーなので是非また来い、と言ってもらいました。）をはじめ 36 名が参加しました。

今大会は 3 分間隔で 8 杯レースとのこと、世界選手権ではレースの前 45 分にクルーが水上に出たとすると、その水域には 48 ボートが存在するが、今大会は、160 ボートが存在することになる、十分に注意を払ってくれとの指示がありました。



最初のミーティングで使われた ITO(左)と NTO(右)を紹介するスライドです。NTO は SLO および近隣国やアメリカからも参加されていました。

私の担当した部署業務のレポートをします。

初日（6日）PM 遅出です、12時～18時29分までのレースのうち15時25分から出番です。

ポジションは750m付近での Umpire です。

実際には900m近いところのコース外で待機し、全艇フィニッシュした後、白旗を掲げ、Finish Judge とクルーに知らせます。

実は1件接触がありました、場所は400mのあたりです、450mの Umpire が追走しましたがその地点ではクルーは離れ、漕ぎ続けました。私はレースを追航し、全艇完漕後の objection がないか待ちましたが、挙手はありませんでしたので白旗を上げました。

2日目（7日）本日のシフトは早出組です。

AMは7:00 第一レーススタート、Control Commission (Out pontoon 2)、なのでまだ薄暗い6時半ころより業務開始です。おまけに靄が出ています。視界は25m程度でしょうか、でもクルーは出ていきます。主な業務内容は、ヒールロープ・バウボール（握って中空でないかも）確認、ID チェックです。特に ID は各クルーの名札入れにパスポートのコピーが入っており、これとスタートリストで照合します、スタートリストは苗字と名前ですが、パスポートにはミドルネームも入っているので照合が大変です。違っているクルーがいれば本部に無線で問い合わせます。

PMは12:56より15:25まで（最終レースは19時前まで）、Umpire 500m

3日目（8日）本日のシフトは遅出です。

AMは10:02より Judge at Finish。ここでの業務は非常に多岐にわたります。まずスリットを見てバウナンバーを叫び、ブザーを押します。そして室内からではありますが白旗を掲げます。通常国際大会ではブザーを押す人と白旗を出す人はそれぞれ NTO がやります。おまけに、1位になったクルーのバウナンバーを無線で Victory ponton に伝えます。私の前の担当 ITO からそのように引き継いだので、そんなもんかと思いやりましたが、後日 Judge at

Finish の担当になった KenLee 氏より、「何をするんだ？」と聞かれ以上の説明をしたら、「それを 1 人でするのは無理だ！」とおっしゃり、レース終了後に「ブザー押しや白旗は他の人にやってもらった」とのことでした。

PM は 16:02 より最終レース 18:53 まで Control Commission(Out pontoon 1)

※2 日目と 3 日目の午前中(待機組に対して、交互)にセミナーが行われました。

講師は Fabio BOLCIC 氏 (ITA) と Ines HAMMAMI HAFSA 氏 (TUN) です。

4 日目 (9 日) 本日のシフトは早出です。

AM は 7:00 第一レースと相変わらず早いです。Umpire 100m です。艇がまっすぐに進んでいないと思われるレースがいくつかあり、横から入ってもらいます。しかしこともあることか、スクリューにブイが絡まりコース内で立ち往生することがありました、次のレースはスタートしています。幸いなことにそのレーン (8 レーン) にクルーはありませんでした。その後何とかロープがほどけ脱出できました。(ドライバーさん、頼みますヨ！)

PM は 13:12 より 16:26、Judge at Start です。False start 2 回取りました。

最終日 (10 日) AM のみ遅出 10:28 より 13:12 Control Commission(Rental pontoon) です。

Rental pontoon というのは Out と In が V 字に配置されており、Filippi 社が艇とオールレンタルをしており、その艇を使うクルーの出入りチェックということになります。

日本のクルーは皆さんレンタル艇でしたのでこの桟橋から出ていかれました。

また、Filippi が用意したオールは各国のブレードカラーが施されており、日本代表のブレードカラーのオールを様々な国のチームが使っていました。

レースや施設、会場の様子をレポートします。



ほとんどのレースが 8 杯レースです。



3 分間隔のレースをするために発艇台後方に Pre-Starter が配置され、予め次の出漕クルーを並べておきます。レースがスタートしたあとステッキ (ボートではなく筏のような感じです) の間を通してボートホルダーに着けます。このような日本ではよくあるステッキボートでの発艇設備は国際大会では珍しいです。通常はすべてのレーンのボートホルダーが歩いて移動できるようつながっています。それでは各クルーがコースの端からバックローでつけている時間がないからと思われる。

ステッキは動きませんので、ボートホルダーの腕の伸縮のみで調整します。

信号発艇装置はありますが今大会では使っていません。





Pre-Starter です。ITO とアシスタント (NTO) で次のレースのクルーを並べます。



Starter (発艇台) です。アシスタント (NTO) と業務にあたります。今大会のスタートは旗発艇です。赤旗は真上では掲げられず横から出して振り下ろします。すべての発艇号令はクイックスタートです。



Judge at Start です。ステッキ (ボートならぬ筏) は動きませんのでスリットを動かします、スリットの片方だけがレールに乗っています。反対側を持ち上げ動かします。アライナー (NTO、艇首を揃えるためボートホルダーに指示します。) の後ろで ITO は False start を判断します。





早朝、霞んでいます。間もなくレースが始まります。Umpire boatです、水上部署の審判員・補助員などの輸送にも使われます。





判定塔の中です。左手前の方が Responsible Finish (ITO)、中央の女性が Judge at Finish (ITO) です。各レースごとに 1 位クルーを Victory pontoon 担当に無線で連絡します。



Finish 付近の観覧席です。この前に表彰桟橋があり、すべてのレースごとに 1 位クルーに対し表彰があります。予選、敗復、決勝という構成ではありません。ITO のポジションに Victory pontoon というのがあり、ここでも無線で 1 位クルーを聞いた後クルーの ID チェックを ITO がします。

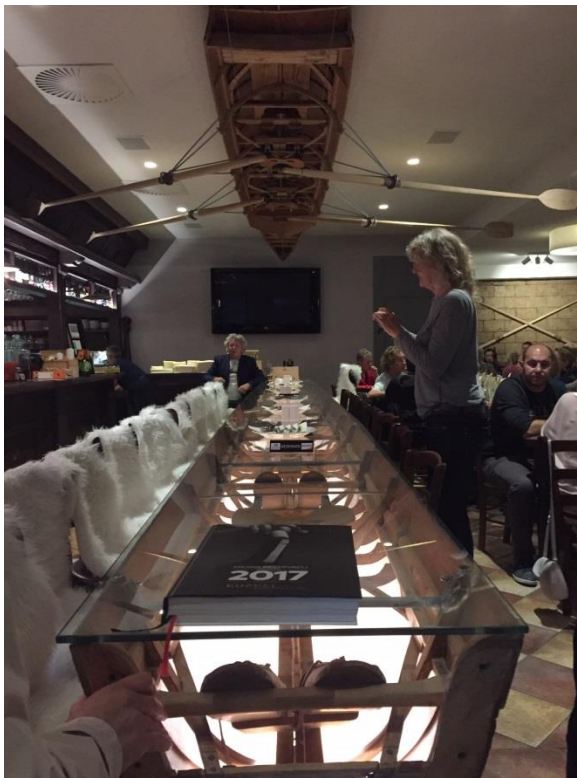


これは最終日の最終レースが終わった後に ITO はじめ役員がエイトを数艇組み、レースをします。この女性クルーは漕ぎ終わった後すぐに一杯やろうというのでしょう。ビールを配っています。このレースは通常のコースではなく、ポンツーンに向かってくるようにレースをしました。雨天でしたがフィニッシュ地点は大変盛り上がりました。





今回の審判（ITO と NTO それぞれ半数）と役員です。



ここは湖畔のとあるレストランです、最終日の夕食を ITO のメンバーと一緒にしようということで入った店です。天井にボートをつけています。長いテーブルはこちらも競漕艇です、ここにガラスを敷いてテーブルにしています。あいにく予約が入っており食事はできませんでしたが、ボートの町という感じがしました。

最後に今回の大会へ派遣いただきましたことに日本ボート協会事務局、国際・審判各委員会ははじめ各方面の方々へ深く御礼申し上げます。5日間で909レース、各シフトの業務時間が22時半という運営は大変でしたが、過去最高の参加数という大きな盛り上がりを見せた大会に参加でき光栄に思います。日本はじめ世界各地でのマスターズ大会がの発展とボート競技人口の増加を願います。